

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	陸前高田市立高田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	2	2	1	15	24
児童数	62	77	86	83	72	76	3	459	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人に確かな学力を付ける指導の在り方 ～算数科・国語科「書くこと」における個に応じた指導の工夫を通して～
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>平成14年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年・算数科 児童の理解度に差が出やすく、また児童が難しさを感じる教科であるため。</li> </ul> <p>平成15年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年・算数科・国語科「書くこと」の領域 算数科については前年度の継続研究、国語科「書くこと」の領域については、前年度研究の課題を受けて、表現力の育成・向上を図るため。</li> </ul>
---

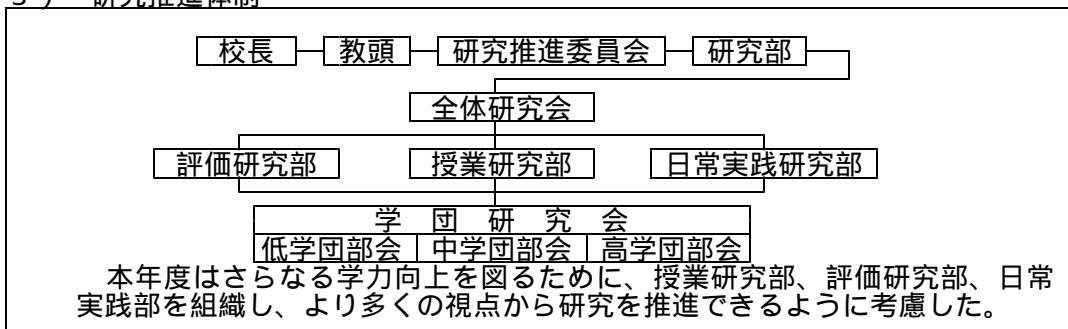
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 算数科における少人数指導やTT指導等、個に応じた指導の在り方の工夫(探る)</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>(1)算数科の学習において少人数指導やTT指導等、指導形態を工夫すれば、児童一人一人に基礎・基本が確実に身に付くであろう。</p> <p>(2)「発展的な学習」や「補充的な学習」など、個に応じた学習のさせ方を工夫すれば、児童一人一人の学力を高めることができるであろう。</p> <p>(3)学習の評価の在り方を工夫し、指導に生かすように努めれば、児童一人一人の意欲が高まり、確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年、学級の実態や単元の特性を踏まえて、仮説に基づく授業実践を行い、全体研究会の場で共通理解を図る。</li> <li>少人数指導など、個に応じた授業の実践を行う。</li> <li>評価の在り方を工夫し、指導に生かすようにする。</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 算数科・国語科「書くこと」における少人数指導やTT指導等、個に応じた指導の在り方の工夫(深める)</p> <p>研究の見通し</p> <p>(1)算数科・国語科「書くこと」の学習において少人数指導やTT指導等、指導形態を工夫すれば、児童一人一人に基礎・基本を身に付けることができるであろう。</p> <p>(2)「発展的な学習」や「補充的な学習」の充実を図っていけば、児童一人一人の学力をより高めることができるであろう。</p> <p>(3)学習の評価の在り方を工夫し、指導に生かすように努めれば、児童一人一人の意欲が高まり、確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮説に基づく授業実践を行い、全体研究会の場で検証する。</li> <li>評価の在り方を工夫し、指導に生かすようにする。</li> <li>研究組織の見直しをする。</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 算数科・国語科「書くこと」における少人数指導やTT指導等、個に応じた指導の在り方の工夫（まとめる） 研究の見通し（現段階の予定） 確かな学力を身に付けていくために、個に応ずることを基に、次のような指導の工夫を実践していく。</p> <p>【算数科】</p> <p>(1) 児童個々の実態把握とその生かし方の工夫 (2) 個に応じた指導形態の工夫 (3) 問題解決における個に応じた指導の工夫 (4) 観点を明確にした評価の工夫</p> <p>【国語科「書くこと」】</p> <p>(1) 「書くこと」の意欲を高めていく指導の工夫 (2) 「書くこと」の能力を高めていく指導の工夫 (3) 観点を明確にした評価の工夫 (4) 算数科・国語科「書くこと」の学習において少人数指導やTT指導等、研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮説に基づく授業実践を行い、全体研究会の場で検証する。</li> <li>・ 評価の在り方を明らかにし、指導に生かすようにする。</li> <li>・ 研究組織を生かした実践を進める。</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>(1) 算数科の授業研究を通して 本年度は、指導形態としてTT、等質分割、習熟度別分割、課題別分割指導を取り入れ、それぞれのよさを生かし、少人数指導を進めてきた。これらの指導から、児童一人一人に目が行き届く、児童のつまずきや学習状況に応じた指導ができる、児童の興味・関心に応じた指導ができる等のよさを改めて確認することができた。 児童の意識調査等から、分からないところをじっくり教えてもらえる、自分の力に合わせて学習を進めることができる、発言の機会が増える等のプラスの意識に変容してきている。 児童の興味・関心等を基に、発展的、補充的内容を取り入れ指導することで、児童の算数学習への興味・関心の広がりや、さらなる基礎・基本の確実な定着につながってきている。</p> <p>(2) 国語科「書くこと」の授業研究を通して 「書くこと」の基礎・基本を取材、構成、記述、推敲・評価のそれぞれの技能を身に付けるとおさえ、各段階の授業研究に取り組むことで、指導の在り方を探ってきた。そのことで、児童は感性をよく働かせたものの方やとらえ方ができるようになったり、構成や表現をよく工夫し、自分の思いや考えを確かに書くことができるようになったりしてきている。これらの力は、国語だけにとどまらず、各教科の学習の中で、基礎的・基本的な力となり、学力向上につながってきている。 「書くこと」の学習では、指導形態としてTT指導を取り入れ授業を進めてきた。複数の教師が指導にあたることで、作文学習の特性である、一人一人の作業量が多くなることに対応し、限られた時間の中で一人一人の学習状況に応じてよりきめ細かな指導ができるようになった。 指導の指標の一つではあるが、各種作文コンクールにおいても、入賞する作品が多くなってきている。さらには学校賞を受賞したコンクールもあり、全体として書くことの力が向上してきている。</p> <p>(3) 学習の評価の在り方について 算数科と国語科「書くこと」について、単元毎に児童一人一人の個人記録表を作成し、評価の観点に沿って評価記録を蓄積することで、児童一人一人の到達度や課題がより明確になり、指導に生かすことができている。</p>
---

る。  
児童の自己評価については、思考の中身を書くことを中心とし、分かったことやつまずき、学習態度なども評価の観点に含め、毎時間取り組んできたこと、そのことで、児童の意欲付けや自己課題の把握、達成感・充実感をもち、それができるようになってきているとともに、単元学習の指導に生かすことができるようになってきている。

評価規準や判断基準を明確にすることで、単元を通しての指導の手立てがより効果的に講ずることができるようになってきた。

(4) 日常実践を通しての成果

朝自習では、計算、漢字、書く活動、読書活動を設定し、短時間で毎日繰り返し取り組むことで、基礎学力の定着につながってきている。また、計算と漢字については、一人一人の学習状況を記録することで、指導に生かすようにしてきた。

休み時間にチャレンジルームを設置し、算数のチャレンジ問題に自主的に挑戦することで学習の意欲化と日常化を目指し、取り組んできた。その結果、学習に意欲的に取り組む児童が少しずつではあるがみられるようになってきた。

書く活動で取り組んだ作品発表を中心に、学団朝会、全校集会を行ってきた。そのことにより、友達の作品のよさに気付いたり、自分の学習に生かそうとする態度が育ってきている。また、発表を聞こうとすることで、大切なことをおさえながら集中して聞こうとする態度も育ってきている。このことが、授業実践に生きてきている。

(5) 各種学力検査等から

NRTの結果から(全国比100)

国語科「書くこと」について

- ・ 「書くこと」の領域については、学校全体で平成14年度が102、平成15年度が105と3ポイントの伸びがみられた。
- ・ 国語科全体でみても、学校全体で平成14年度が102に対して、平成15年度が106であり、着実に学力が向上している。

算数科について

- ・ 算数科全体でみると、学校全体で平成14年度が107、平成15年度が106と1ポイント下がっているが、一定の学力水準は保っている。

CRTの結果から(全国比100)

国語科「書くこと」について

- ・ 「書くこと」の領域については、学校全体で114であり、4月のNRTの結果(105)と比較すると、大きな伸びがみられる。
- ・ 国語科全体でみると、学校全体で108であり、4月のNRTの結果(106)と比較するとわずかながら伸びがみられた。

算数科について

- ・ 算数科全体でみると、学校全体で102であり、4月のNRTの結果(106)と比較すると4ポイント下がっているが、全国水準は上回っている。
- ・ 第2学年の、算数への関心・意欲・態度の得点率が93%と高い数値を示している。

## 2. 今後の課題

(1) 算数科・国語科「書くこと」の研究を通しての課題

TT指導や少人数指導では、時間割や教室割り当ての編成が難しく、教師の動きが複雑になる。また打ち合わせの時間の確保も難しい。

多様な指導形態の授業実践を積み重ねてきたが、学習単元を通してどの学習にどの指導形態が有効なのかをさらに追究する必要がある。

習熟度別分割指導を行う場合、学習状況が遅れがちな児童の集まる集団はどうしてもメンバー構成が同じになってしまう傾向があり、児童の心気面への配慮が難しい。

児童の学習状況や個に応じた指導のための、さらなる教材・教具の工夫が必要である

算数科・国語科「書くこと」については、児童一人一人の評価を毎時間分記録し、評価記録を蓄積しているが、時間的なことや人数的なことなどの理由から大変労力を要する。そこで、より効率的でより有効な評価方法の工夫が必要である。

(2) 日常実践を通しての課題

朝自習では、学習の遅れがちな児童がどうしても出てしまう。そのため補充指導の工夫が必要である。

チャレンジルームでは、来室する人数によって、つまずきに対応した指導が十分できず担任との連携の在り方を考えていかなければならない。

集会活動等では、1年生から6年生までの作品発表をするので、聞く側の立場から発達段階を考えた内容の検討が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

1	標準学力検査NRT	
(1)	実施時期	4月
(2)	実施学年	全校
(3)	目的	児童の学力水準を全国基準で客観的に把握する。 重点指導領域の確認をする。
2	標準学力検査CRT	
(1)	時期	12月
(2)	実施学年	2・4・6年
(3)	目的	児童の基礎・基本の定着度の確認をする。 観点別に学習状況の把握をする。 通過率や誤答内容等の確認と補充指導をする。
3	単元学習におけるP1、P2テスト、単元テスト	
(1)	時期	単元学習前及び単元学習終了後
(2)	目的	指導の有効性を検証する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 平成15年度活動経過

開催期日	内 容	テーマ等
5月16日	学力向上フロンティアスクール研究地区推進会議	・ 学校の課題、研究内容等の説明 (各市町村教育委員会指導主事、事務所担当指導主事、校長、研究担当、PTA役員)
6月～9月	地区懇談会	・ 学力向上に向けての研究計画及び取組状況等の説明(学校職員、保護者)
9月2日	授業参観日 第3学年授業公開(算数)	・ TT指導の授業実践の公開
9月10日	岩手県学力向上フロンティアスクール研究推進会議	・ 学校の課題、研究内容等の説明 (各市町村指導主事、事務所担当指導主事、研究担当)
12月9日	授業参観日 第6学年授業公開(算数)	・ 1学級を2つのコースに分けての少人数指導の公開
12月15日	地区推進会議	・ 研究の推進状況 (校長、教頭、教務、研究担当、PTA役員)
1月14日	岩手県学力向上フロンティアスクール研究推進会議	・ 研究の中間報告(取り組み状況、成果と課題等)(各市町村教育委員会指導主事、事務所担当指導主事、校長、研究担当)

2 研究成果普及のための研究会の開催予定  
平成16年10月 学校公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無